

1 レタス高品質・安定生産を目指した技術開発

本県野菜作付面積は10年前と比べて14%減少した。しかし、レタスは16%増加し、1,310haが栽培され、タマネギに次ぐ重要な品目になっている（平成16年園芸作物統計）。レタスは食卓に不可欠な野菜で、安定した供給が望まれているが、長期間の連作などで生産、品質が不安定である。そこで、関係各々が

連携して、生産を阻害している要因を取り除くために、土壌消毒や耕種などの病虫害防除法、健苗作りなどについて対策技術の開発に取り組んでいる（図）。

宇田 明（淡路農技・農業部）
（問い合わせ先 電話：0799-42-4880）

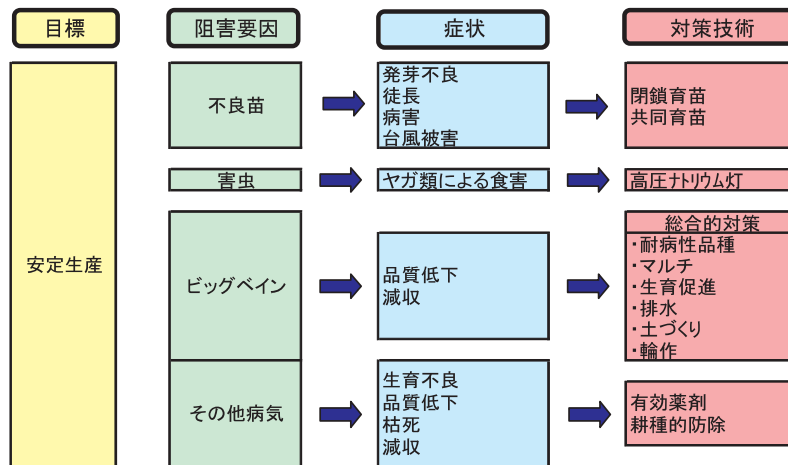


図 レタス高品質安定生産を旨とした技術開発

2 レタスヤガ類に対する高圧ナトリウム灯の有効距離

ねらいと成果

レタスほ場に高圧ナトリウム灯を効率的に集団設置するため、ヤガ類の種類及び防除可能な光源からの距離を検討した。その結果、加害種はハスモンヨトウ、オオタバコガ、イラクサギンウワバの3種で、3種とも高圧ナトリウム灯が有効であることを確認した。

内容

淡路農技内ほ場において高圧ナトリウム灯（高さ2.5m。100V、220W。NBT製）と平行に、最短距離が約10m、20m、30m、100mとなる位置に畝（長さ28m、幅1.35m、株間28cm）を設置し、2005年9月30日と10月6日に畝当たり約100株ずつ定植し、定植日より高圧ナトリウム灯を点灯した。10月17日と12月10日に各畝全株に寄生する虫数を種別に調査するとともに、寄生していた虫はすべて調査時に捕殺し、株から除去した。

その結果、ハスモンヨトウは35mまで、イラクサギンウワバは25mまで寄生株率が4%以下に抑えられ、防除効果が認められた。オオタバコガは100m

まで10%以下の寄生株率となり、この範囲内では距離による明らかな差が認められなかったことから少なくとも100mまで有効と判断された（図）。

今後の方針

設置ほ場に隣接した農家に対する光害と、乳牛への影響を軽減した設置法を実証する。

廣瀬 敏晴（淡路農技・農業部）
（問い合わせ先 電話：0799-42-4880）

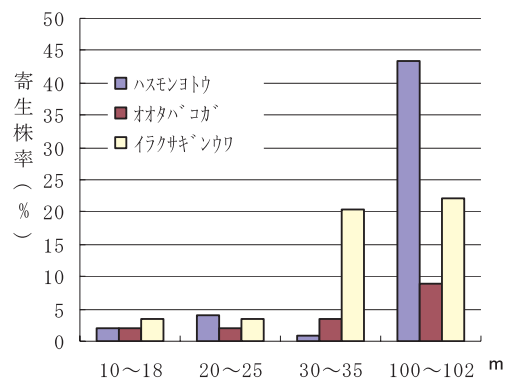


図 光源からの距離とヤガ類の寄生